

カーブドッチワイナリーが「ライタース・イン・レジデンス」のプロジェクトを開始

株式会社カーブドッチ(本社:新潟県、代表取締役社長:今井 卓)は、作家がカーブドッチに滞在し、この地を舞台に物語を書き上げる「カーブドッチ ライタース・イン・レジデンス」というプロジェクトを開始し、第一作目として原田マハさん書き下ろしの『旅をあきらめるにはまだ早い友への手紙』を2023年9月22日に出版します。



新潟市の南西部、日本海に沿ってのびやかに横たわる角田山の麓、広大なぶどう畑に囲まれた一帯にカーブドッチがあります。訪れた人がワイン造りの現場に触れ、ワインが生まれ育つ場所で、ワインを愉しみ、豊かな時間を過ごしてもらいたいという想いからカーブドッチは始まりました。いつでもゆっくりしていただけるように、ヴィネスパとトラヴィーニュという2つの宿泊施設を用意。館内には、約4000冊の本がいたるところに並んでおり、自由に手に取って読むことができます。

「カーブドッチ ライタース・イン・レジデンス」とは、ひとりの作家がカーブドッチに滞在し、この地を舞台とした物語を書き上げ、カーブドッチが出版・販売を行うプロジェクトです。この本はカーブドッチワイナリーの店頭と公式オンラインショップでのみ、手にいれることができます。今回の原田マハさんの作品はその第一作目です。この場所ならではの読書体験と、この地を訪れた旅のお土産として楽しんでいただきます。

<https://nwinecoast.thebase.in/>

書籍紹介

一旅って、人生みたいなもんどちゃう？

大学時代の同級生で十四年ぶりに再会したハグとナガラ。転職、別離、介護……人生の折り返し点を前にした、女ふたりの六つの旅物語をまとめた文庫オリジナル短編集「ハグとナガラ」。今作はその旅の最終地点となっています。

一私は思う存分、食事とワインのシンフォニーを味わった。そうしているあいだじゅう、ずっと、豊かな、あたたかな何かが心を満たしていた。

良いときも、辛いときも、ともに旅を楽しむことができる存在がいることは、なんと素敵なことだろう。日常をはなれ、自分のために過ごす時間に、ふと大切なことに気付くのかもしれません。旅の思い出やその時に感じたことを振り返りたくなる一冊です。

著者紹介



原田マハ

1962年東京都生まれ。関西学院大学文学部、早稲田大学第二文学部卒業。森美術館設立準備室勤務、MoMAへの派遣を経て独立、フリーのキュレーター、カルチャーライターとして活躍する。2005年『カフーを待ちわびて』で日本ラブストーリー大賞を受賞し、デビュー。2012年『楽園のカンヴァス』（新潮社）で山本周五郎賞受賞。2017年『リーチ先生』（集英社）で新田次郎文学賞受賞。

書籍紹介

タイトル: 旅をあきらめるにはまだ早い友への手紙

著者: 原田マハ

装丁: 本庄浩剛

編集: 幅允孝・渡邊唯(BACH)

発売日: 2023年9月22日

価格: 1,300円(税込)

発行・発売: 株式会社カーブドッチ